



# 保育実践と先端知・先端ア プローチをつなぐ 【趣旨説明】

野澤 祥子

(東京大学 発達保育実践政策学センター)

## 【保育の課題】

### 保育に関わる政策動向

➤ **子ども子育て支援新制度**（平成27年4月施行）

「すべての子ども・子育て家庭を対象に、市町村が実施主体となり、幼児期の学校教育、保育、地域の子ども・子育て支援の量及び質の向上を図る。」

➤ **要領・指針の改訂／改定**（平成30年4月施行）

要領・指針の整合性が図られる

「生きる力の基礎を育むため、子どもの資質・能力を育む」ことの明記

（「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」）

➤ **幼児教育・保育の無償化**（平成31年10月開始予定）

3～5歳児の全員と住民税非課税世帯の0～2歳児を対象として幼児教育・保育を無償化する

## 【保育の課題】

### □保育の課題

量的課題

待機児童問題 保育者不足問題  
保育所不足問題

質的課題

保育者の専門性 保育実践の質  
保育者の労働環境（多忙、人手不足）  
園の居住環境・戸外環境 安全管理

乳児期からの  
保育の質に関するデータを収集し、  
質の保障・向上に向けた  
効果的取り組みを  
データに基づいて構想すること  
が必須不可欠

## 【研究の枠組】

保育実践・保育政策向上のための

データ収集

⇒ **研究や政策立案等に  
活用可能なデータベース構築**

- ✓ 国際比較可能な保育の質評価データ
- ✓ 保育・養育環境と子どもの発達の縦断データ
- ✓ 自治体の取り組み事例
- ✓ 全国基礎自治体データ

データ  
ベース



システム  
デザイン

実装

データの統合的分析に基づき、  
保育実践・保育政策向上のための  
効果的システムを検討  
⇒ **保育実践・政策への提言**

- ✓ 保育の質を高める園組織、  
保育実践のあり方
- ✓ 園や保育者を支える自治体  
の取り組みのあり方

研究知見と開発された  
ツールを活用し、  
保育の質の保障・向上に  
に向けた取り組みを実装  
⇒ **保育の質向上へ貢献**

- ✓ 保育の質評価ツールを活用した研修
- ✓ 環境センシングシステムを活用した、保育環境モニタリングと環境改善
- ✓ 保育の質モニタリングシステムづくり



- ✓ 学術論文
- ✓ 学会発表
- ✓ シンポジウム
- ✓ ウェブサイト
- ✓ 書籍

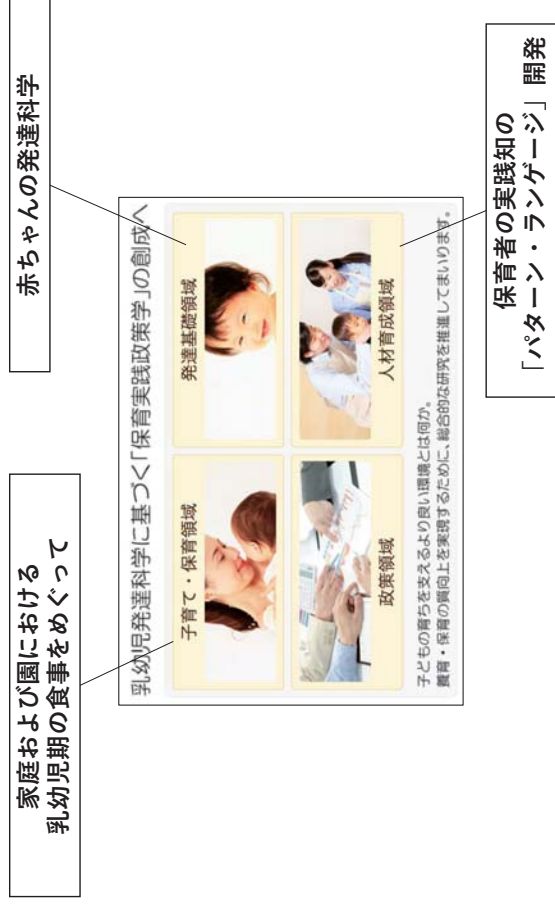
成果を国内外に  
発信

## 【研究の視点】



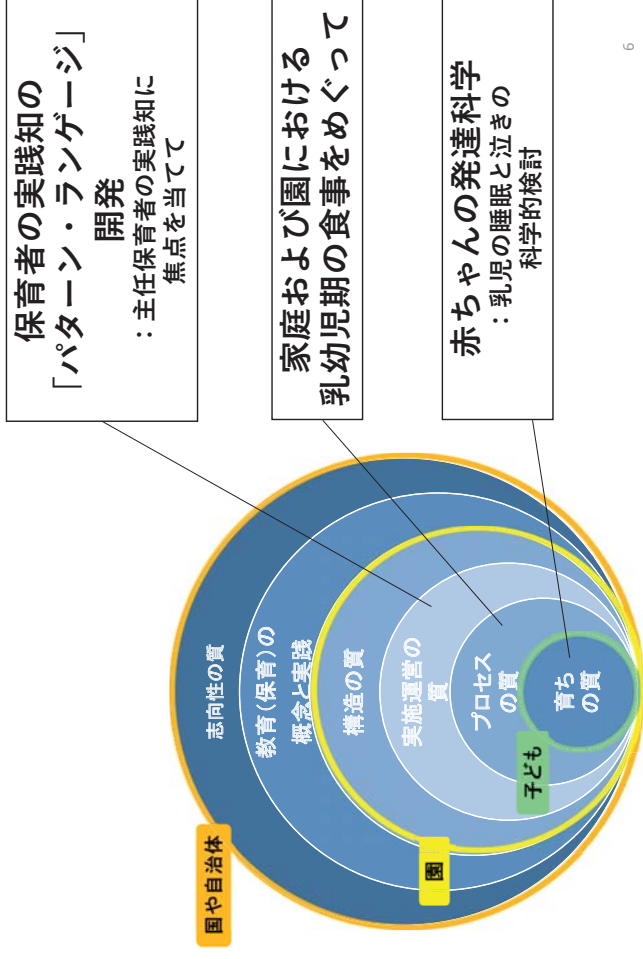
5

## Cedepの研究領域との対応



7

## 【本日の内容】



6

- 保育者の実践知の「パターン・ランゲージ」開発  
井庭崇 (慶応義塾大学SFC総合政策学部教授)  
天野美和子 (Cedep特任研究員)
- 家庭および園における乳幼児期の食事をめぐって  
淀川裕美 (Cedep特任講師)
- 赤ちゃんの発達科学  
新屋裕太 (Cedep特任研究員)

8